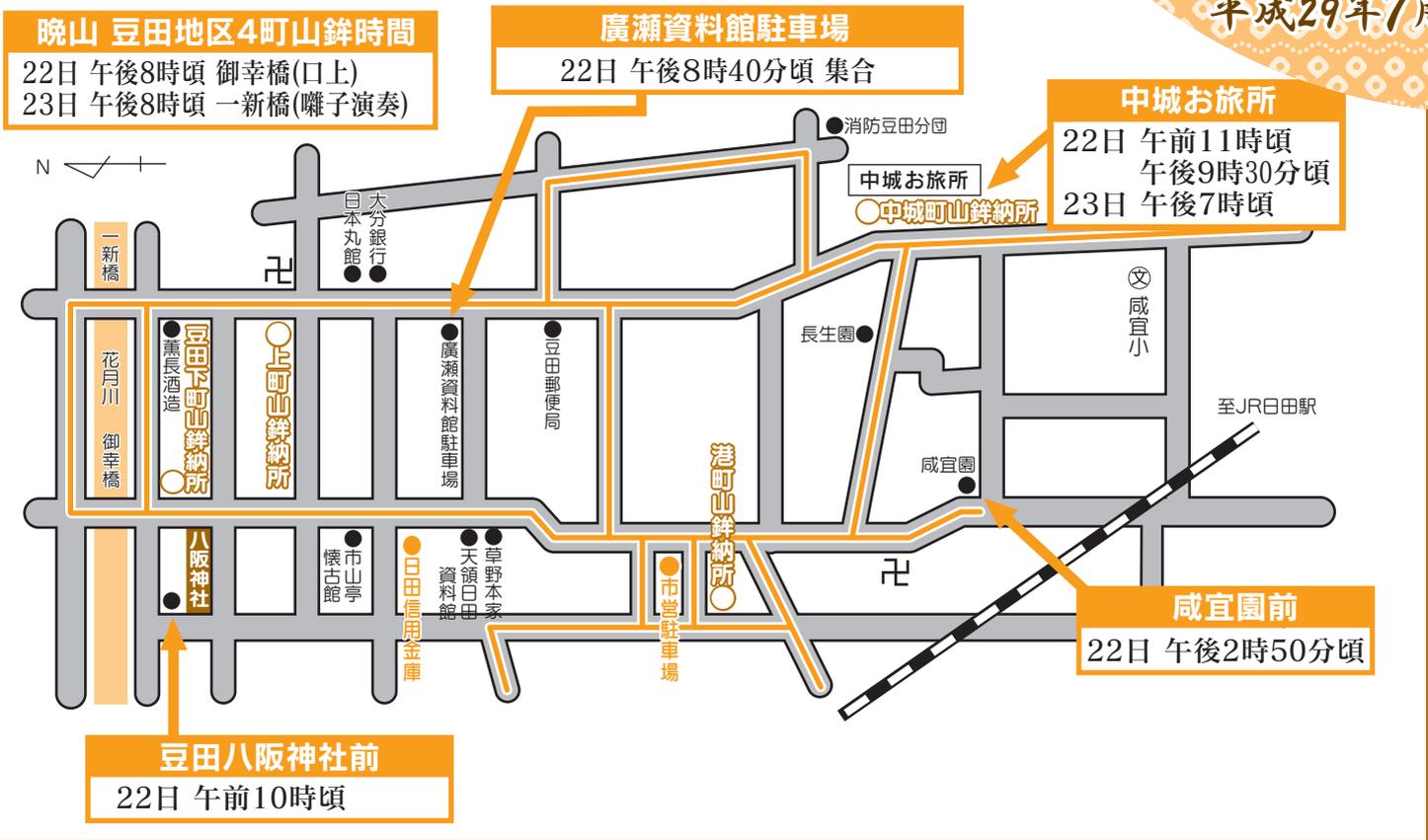


豆田地区

※豆田地区は、夜間(午後6時～午後10時)車輛進入禁止になります。

日田祇園山

平成29年7月2日



【豆田の起り】

江戸時代の慶長6年(1601年)に、小川壱岐守光氏が丸山城と称して月隈山(現・月隈公園)に築城した際に、城の東側に十二町村から商家を移して町が開かれました。元和2年(1616年)には譜代の石川主殿忠総が丸山城を改築して永山城と改め、城下の武家屋敷を花月川の対岸まで拡大し、豆田町としました。

その後、幕府の天領となり代官所が置かれ、昇格し西国筋郡代役所になり、九州の政治、金融の中心として栄えました。また、幕末には廣瀬淡窓が咸宜園を開き、全国から塾生が集まってきました。



豆田上町

上町の山鉾は、日田祇園山鉾で唯一のうしろ人形が乗ります。当番町「室町」の見送りと共に、勇敢な後ろ姿も必見です。

見送り『鷲』
 明治21年(1888年)制作



港町

港町の山鉾は、巡行距離も長く、平成29年復元新調の可変式の山鉾(高さが自在に変えられる)が町内各所をくまなく回ります。併せて、平成22年に復元新調した「見送り」は必見です。

見送り『牡丹に唐獅子』
 平成22年(2010年)復元新調



豆田下町

豆田下町の山鉾は、台の横幅は2mを超え、車輪の直径も約90cmと市内で最大級の大きさになっています。

今年も、一昨年179年ぶりに復元新調した見送幕・水引幕を取り付けます。豪華絢爛な山鉾にご期待ください。

見送り『鳳凰』
 平成27年(2015年)復元新調



中城町

中城町の山鉾は、電線の高さ等の状況に応じて、山鉾の高さを自由に上げ下げできるのが特徴です。

昨年、167年ぶりに復元新調した見送幕を是非ご覧ください。

見送り『玄武』
 平成28年(2016年)復元新調

